



イラストレーション 恐竜くん ©Masashi Tanaka

ソニーグループの

学びとエンタメを合体させたソニーのクリエイティブ

ソニーグループ9社が主催するDinoScience恐竜科学博は、恐竜マニアはもちろん、メディア技術からも見どころが多い。恐竜が生まれたのは約2億3,000万年前の三畳紀の半ばで、約6,600万年前の白亜紀に大量絶滅するまでのおよそ1億6,000万年もの長い時間軸をどう体験させるのか。そこに見た「ソニーらしさ」をレポートする。(レポート・写真:吉井 勇・本誌編集部)



ついに日本に上陸した奇跡の化石「レイン」と「恐竜くん」田中真士氏

実物化石「レイン」 米国外で初公開

世界中の恐竜マニアが見たい「レイン」が日本に上陸した。レインは、トリケラトプスの実物化石で、皮膚痕とともに骨格の8割が化石で発見された奇跡の標本である。

これを実現させた一人が、サイエンスコミュニケーター“恐竜くん”こと、田中真士氏だ。恐竜に魅せられ、16歳で単身カナダに留学。恐竜の研究が盛んなアルバータ大学で古生物学などを広く学び、恐竜の豊富な知識をもとに楽しく、わかりやすく伝える稀有な人物だ。レイン来日の実現を支えたのは、レインを展示する米ヒューストン自

然科学博物館のジョエル・バーチ CEO 兼館長や、レインを発掘した米ブラックヒルズ地質学研究所のピーター・ラーソン所長と田中氏の信頼関係である。

「1億年以上もの恐竜時代を俯瞰するのではなく、最後の200万年間にあったララミディア大陸に焦点を当て、レインが見ていた時代を体験してもらおう」という「恐竜くん」をソニーグループの製作委員会は企画・監修に抜擢した。そしてソニーグループのValuesのひとつである「夢と好奇心」と、「恐竜くん」の情熱と「サイエンス」が融合して新しい恐竜展を誕生させた。

ソニーのITメディア技術が 想像力や発見力を刺激

DinoScience恐竜科学博製作委員長・水野道訓氏が「4年前から構想を始め、ソニーグループの総力を挙げて準備をしてきた」と話すように、展示プランからオリジナルグッズやフードまでアイデア満載の会場となった。

“恐竜くん”とソニーグループは、科学的な学びと体験型のエンタテインメントを融合させるEducationとEntertainmentの